

デゴイチ おんちゃんの話

大川悦生・作 那須良輔・絵



イチの話 おんちゃんの話

大川悦生・作 那須良輔・絵



ポブラ社の創作文庫 12
デゴイチおんちゃんの話
大川悦生著
ポブラ社 昭和54年 118p 22cm
N. D. C. 913



検印省略

デゴイチおんちゃんの話

著者 おお かわ えつ せい 大川悦生

昭和49年7月 第1刷©

発行者 久保田忠夫

昭和54年2月 第8刷

発行所 株式会社 ポ プ ラ 社

〒160 東京都新宿区須賀町5
振替 東京4-149271

印刷所 新興印刷製本株式会社

製本所 三進製本所

落丁・乱丁本はいつでもおとりかえます

8093-005012-7764

まえがき

デゴイチが はしっていくよ
うっしゅーごっご ウボーツ
ちからづよくて 生きものみたいだ

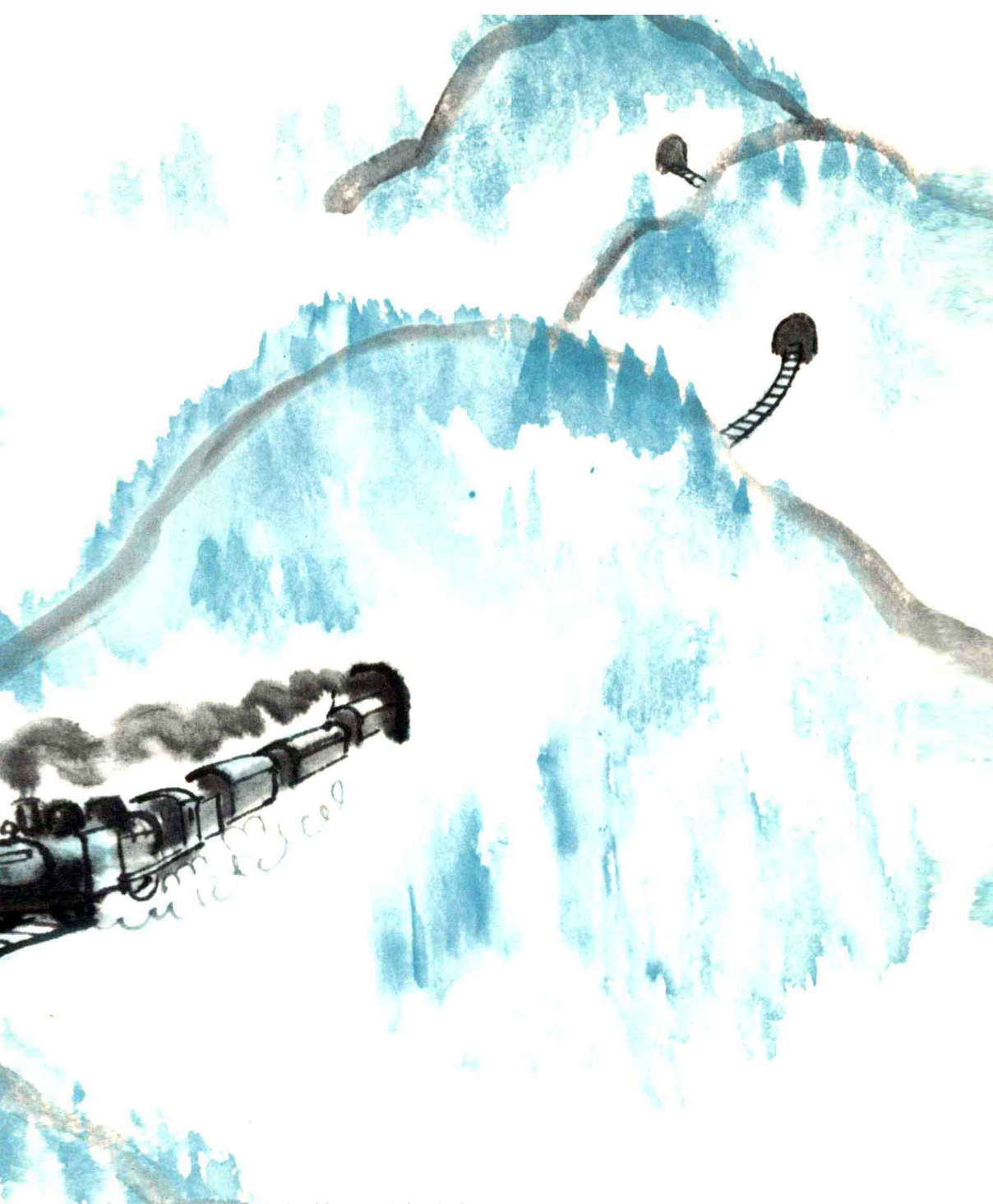
きかん士の おんちゃんは
あせと すすとに まみれながら
きょうも

「しゅっぱつ・しんこう！」

なして あの おんちゃん
かまたき(きかん士)に なったんだべ
なにを かんがえながら
しゅっぱすっぱと

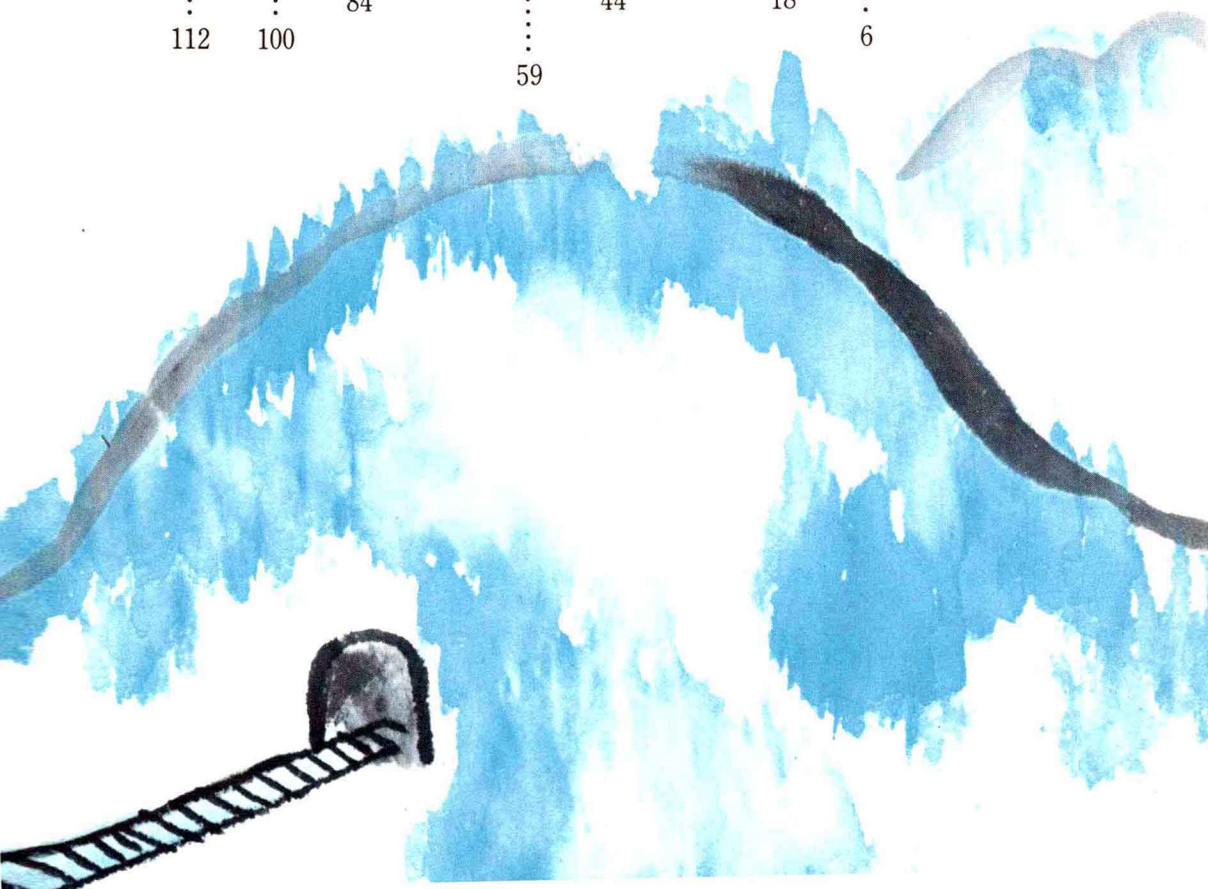
山のあいだを いくんだべか





もくじ

学校 ^{がっこう} なまけて 汽車 ^{きしゃ} をみに……………	6
カラスから かまたきへ……………	18
きつねが しゅぼすぼ……………	28
マタギ村 ^{むら} の こどもたち……………	44
しゅっせいへいしを のせて……………	59
また 花 ^{はな} がさいたとき……………	72
やっと デゴイチ ^{でごいち} がきた……………	84
汽車 ^{きしゃ} えんそくの ことなど……………	100
デゴイチ ^{でごいち} 1号 ^{ごう} の しゃしん……………	112
あとがき……………	117



著者の紹介

大川悦生（おかわ えっせい）

一九三〇年、長野県に生まれる。

早稲田大学文学部卒業。

各地を歩いて民話を聞き、その再話や現代民話文学の創作に力を注いでいる。現在、民話を語る会・東京のむかしを聞く会主催。

著書に「いつすんぼうし」「こぶとり」などの民話絵本、「山のかあさんと16びきのねずみ」「おかあさんの木」「日本民話読本」などがある。

那須良輔（なすりようすけ）

一九一三年、熊本県に生まれる。

太平洋美術学校卒業。

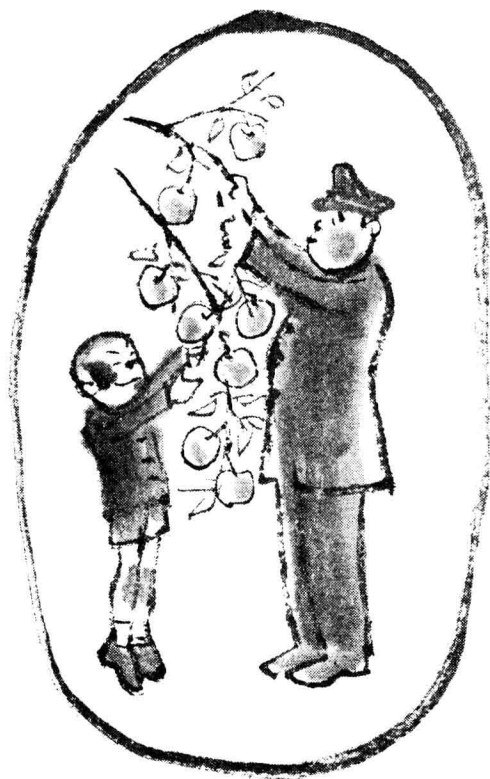
現在、漫画集団員、日本ペンクラブ会員、毎日新聞社学芸部嘱託。

主な著書に「絵本歳時記」「釣り道楽」

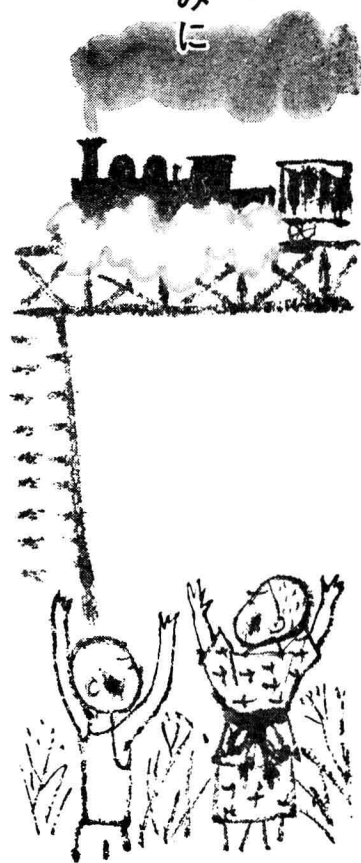
「魚眼レンズ」「似顔絵の描き方」、ほかに「しゅてんどろじ」挿画、「いたずらわんぱくものがたり」挿画などがある。



デゴイチ
おんちやんの話



学校^{がっこう}なまけて
汽車^{きしゃ}をみに



おんちゃんの 汽車^{きしゃ}が はしっていく。

うっしゅごっとな、うっしゅごっとな、しゅほすほ、しゅほすほ……山^{やま}
のあいだの まがりくねった のぼりこうばいを、いきをきらせて はし
っていく。

えんとつが ひろりとながい、もう ふるぼけた きかん車^{しゃ}だ。

でも、『ネルソン六二〇〇型^{がた}』って すこし むかしは イギリスうま
れの さいしん式^{しき}だった やつさ。なにしろ、おんちゃんの わかかった
ころは、まだ デゴイチなんて できてなかったものな。

うしろに ひっぱっているのは、きやく車^{しゃ}が 二つきりと、か車^{しゃ}が 三

つ。

ビボーッ　ボボオ

そら　トンネルへ　はいったぞ。けむい、けむい。

はなと口くちとに　てぬぐいをあてて、一つ　また一つ　トンネルをぬけると、ふかい　谷川たにがわにかかった　橋はしだ。あの橋はしは、もとは　てつきようじゃなくて　木きの橋はしだったな。

ごとたん　ごとたん、スピードをおとして　橋はしをわたれば、すぐに　小ちいさな　ていしゃばさ。

学校がっこうがえりの　山やまのこどもたちが　土手どてのうえを　はしりながら、「わーい　汽車きしやきた、汽車きしやきた。いつもの　おんちゃんのだ。」と　手てをふっている。

おや、むこうの　さかみちを　じんつあまが　ひとり、でかい　ふろしきづつみを　しょって、のこたりのこたりと　おりてくる。この列車れっしやにのってくつもしらしいぞ。

「おーい、じんつあま、はやく こねば まにあわんでよ。」

おんちゃんは くびをつきだして 大^{おお}ごえでいってやるんだ。

☆

もう いま、おんちゃんは すっかり しらがあたまになっている。

たばこ屋^やの 店^{みせ}ばんをしながら、こっくりこっくり ふねをこいでいる。

「はっ車^{しゃ}！」

いねむりおんちゃんが しさこしよう（ゆびさして となえる こと）をし

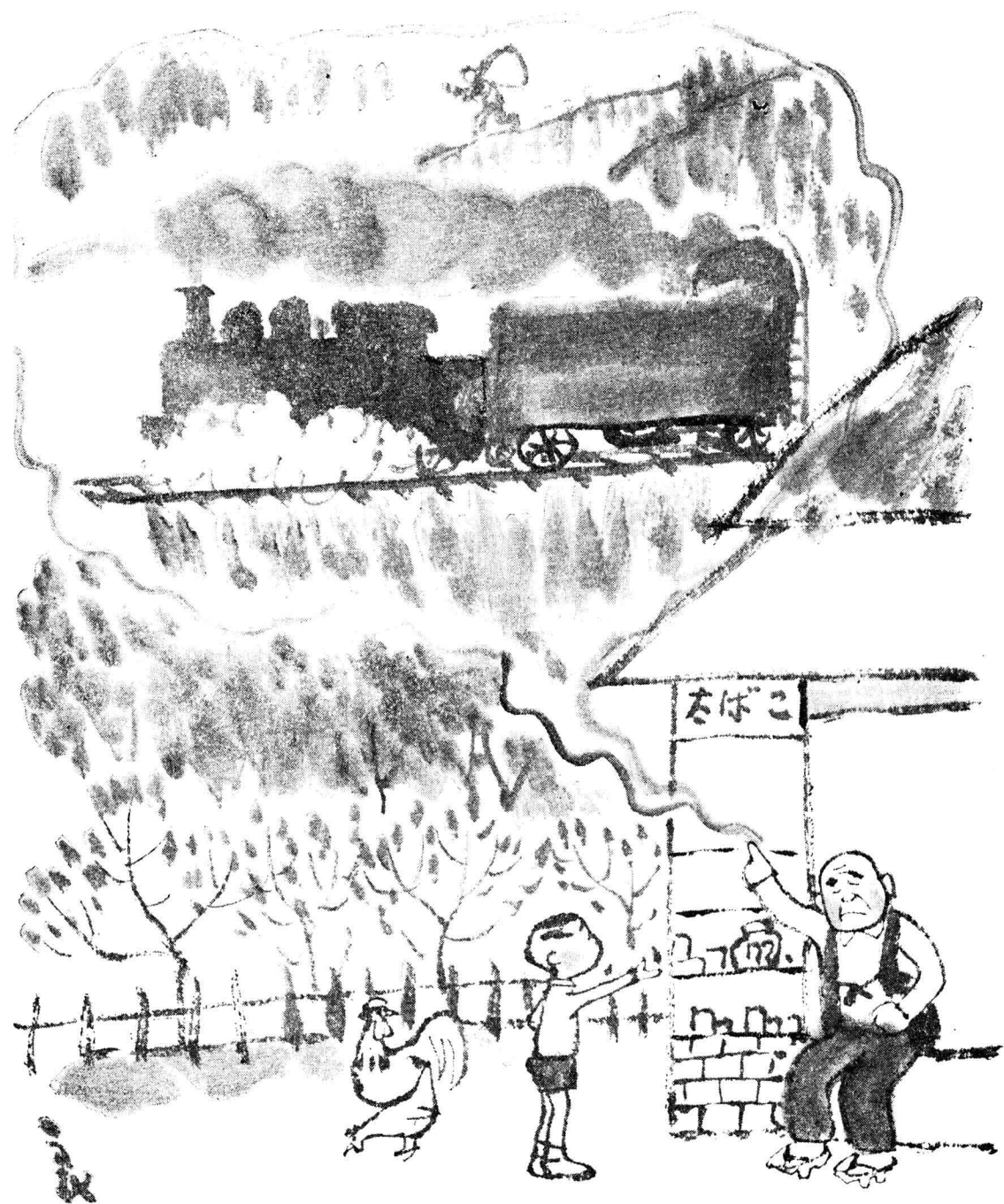
た とたん、きんじよの子^こが 店^{みせ}へとんできて、

——おんちゃん ハイライト——

といったので、びくつとなって ガラスとだなの ハイライトをつまみだした。百^{ひゃく}円^{えん}だまの おつりの 二十^{えん}円^{えん}も わたしてやった。

その子^こが かえると、おんちゃんは また、こっくり いねむりをはじめた。

「しゅっぱつ しんこう！ ぜんぽうちゅうい。」



やっと はっ車^{しゃ}だ。ふるぼけた ネルソン六二〇〇型^{がた}は、もつくもつくけむりをあげて うごきだす。どうやら、あの じんつあまも まにあつてくれたな。

「ああ やれ、三分^{ぶん}ばかり おくれちまったなす。しゅうてんさ つくまでに とりもどさねばなんね。」

しゅぼすぼ しゅぼすぼ ごととん だつとん ビボーツ。

おんちゃんの 汽車^{きしゃ}は まいにち やすみなく はしりつづける。店^{みせ}ばんをしながら いねむりしていたって、ちゃんと しんごうや じこくひょうを たしかめ、山^{やま}あいの せんろをはしっていく。

ふるぼけた きかん車^{しゃ}ばかりじゃないよ。デゴイチの 二じゅうれんけつで ぼつ ぼつ ぼつ ぼつと かつこよく はしるときもあるし、ほかの いろんな きかん車^{しゃ}で いくときもある。

どれにしたって、おんちゃんは 三十五年^{ねん}かん じょうききかん車^{しゃ}を うんてんしてきたんだもの。二十のとしから 五十五さいまで、ほんとに

ながいこと はしりつづけてきたんだから、まだ まだ とまりっこないのさ。

☆

おんちゃんは うまれたときから おんちゃんだった。家の あととりになれない 次男^{じなん}ぼうのことを こころの ことばで、『おんちゃん』とか 『おんつ あん』というんだよ。

ほんとうの なまえは 山木^{やまぎ}作^{さく}次郎^{じろう}。

「ちつと えらそうな なまえだべ。町の 議員^{ぎいん}さんぐらいに なつてもおかしくないべ。したが、えらくも なんにも ならねかったス。」

おんちゃんは わらっていうけれど、うまれたところは 町^{まち}から ずつとはなれた おくの村^{むら}で、はたけが 三〇アールと たんぼが 二〇アール。すごく びんぼうな ひやくしょう家^やだったと。

おまけに、おとうとや いもうとが 七人^{にん}もうまれたので、おんちゃん は こどもだったころ、

「おれ、白い米しろこめのまま（ごはん）など めったに たべなかつたな。ひえと
じゃがいもばかり くってて、のらしごと いそがしくないときは、ひ
るめしぬきの ことが おおかつたもんだ。」

というよ。

学校がっこうへあがっても、べんとうは たまにしか もたせてもらえなかつた。
むかしは ひるの きゅうしょくなんか ない。

おなか すくべ。ひもじくなるべ。そんなとき どうしたって きくと、
おんちゃんは いいにくそうに、

「はらへるの なれてただから、それほどでも ねかつたス。ひもじくて
こまれば こどもなんだもの、クワの実み とってくつたり、クリこ ひ
ろってかじったり いろいろしたっけもな。」

と こたえた。

おんちゃんは せが 小さい。

きつと、にくだの さかなだの、うまいものを はらいっぱい たべら

れなかったせいだと おもう。そんな びんぼうな ひやくしょうの子^こだ
った おんちゃんが、なして(どうして) きかん士^しになったのだろう？

じんじよう小学三年^{しょうがくねん}の ときだと。

村^{むら}から 十六キロも はなれた 町^{まち}に、はじめて 汽車^{きしや}がとおった。あ
る日^ひ、おんちゃんは ともだちと、

「おれ 学校^{がっこう}さいくの なまけても 汽車^{きしや}みにいきてえ。」

「うんだ、おれも いきてえだ。」

といって べんきようどうぐを お宮^{みや}さまのえんの下^{した}へ ほうりこみ、ふ
たりで てくてくと あるきだした。

町^{まち}へついたら、もう おひるになっていた。せんろばたで まっている
と、しゅっしゅう ごっごつと じびきをたて、大きな まっくろい
汽車^{きしや}がきた。

馬車^{ばしや}しか しらない おんちゃんは、びっくらこいて きもをつぶし、
「ひゃあ おっかねえ——」

